

学校名	山梨県立盲学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 113回
	地域交流 : 10回
	居住地校交流 : 1回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流：メッセージを贈ろう（特別活動）
実施した学部・学年	高等部普通科（制作：高等部普通科、鑑賞：全校幼児児童生徒）
実践の様子	
 <p>DVDを鑑賞している児童</p>	
 <p>メッセージを読んでいる生徒</p>	
 <p>相手校へのメッセージとして作成した掲示物</p>	
児童・生徒の様子や実践の工夫点	
<ul style="list-style-type: none"> ・盲学校での様子を通信にして作成し、各交流相手校に受け取っていただいている。作成時には相手校へ意識を向けながら作成し、精一杯の気持ちを送ることができた。 ・甲府城西高等学校より、授業で点字学習に取り組む中で、本校の幼児児童生徒へ手作りのメッセージカードを贈っていただいた。幼児児童生徒は手に取り、読んだり嬉しい気持ちを言葉にしたりしていた。また、応援入り音楽集会のDVDも頂戴し、吹奏楽部の演奏や合唱部の歌声、本校幼児児童生徒へのエールを各学部や学級で鑑賞することができた。各方面で活躍する生徒のみなさんの様子をうかがい知ることができ、本校生徒の励みにつながっている。 	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・昨今の様々な状況から、直接交流が難しい中、このようなメッセージ等のやり取りを通し、優しい言葉かけを聴くことができたり、たくさんの笑顔が生まれたりした。間接交流ではあるが、とても心あたたまるひと時をもつことができた。来年度以降も継続させ、大切にしていきたい交流だと感じている。 ・今年度も、様々な状況よりオンラインでの交流は実現できなかったため、間接交流の一つとして、来年度もオンライン等による交流が可能であるなら、実施に向けて探していきたい。 	

問い合わせ担当（交流係 小林）

学校名	山梨県立ろう学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 26回
	地域交流 : 10回
	居住地校交流 : 14回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	お互いのことを知ろう (特別活動)
実施した学部・学年	中学部 (全学年)
実践の様子	
	
児童・生徒の様子や実践の工夫点	
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、ビデオ通話システムを使った交流を行った。 ・春日居中の各クラスの福祉交流委員とろう学校の各生徒が、1つずつ決められたテーマ (好きなアニメ・漫画、最近ハマっていること、嫌いなこと、趣味等) を担当し、順番に発表した。 ・ビデオ通話システムでの交流はこれまでに経験がある生徒が多く、見通しをもって意欲的に参加できた。 	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ通話システムは生徒にとって親しみやすく、また教師にとっても設定がしやすいという利点があるが、通信環境によって映像と音声にズレが出たり、映像が途切れたりするため、相手の話を理解することが難しい場面がある。 ・生徒が状況に応じたコミュニケーション方法を考えて交流できるよう、交流校との綿密な打ち合わせや計画的な事前学習を行っていきたい。 	

問い合わせ担当 (高波 由香)

学校名	山梨県立甲府支援学校	
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流	: 12回
	地域交流	: 3回 (児童生徒の作品や手紙をみていただく)
	居住地校交流	: 6回 (児童生徒の作品や手紙をみていただく)
特徴的な実践例・工夫点		
授業名	学校間交流 友達を知ろう (特別活動)	
実施した学部・学年	中学部 全学年	
実践の様子		
	<p>感想文を書く生徒 「ハンドクラップ すごかったよ！」</p>	<p>「敷島中学校 の校長先生 だって…」</p>
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p> <p>第1回目は、両校互いに学校紹介ビデオを作成して視聴しあう間接交流を行った。敷島中からのビデオには、県内唯一のアーチェリー部をはじめサッカー部や剣道部、パソコン部や英語部などの紹介や、交流学級1年2組全員によるハンドクラップの発表が収録されていた。普段本校の生徒がなかなか目に見ることができない放課後の活動について知ることができた。ハンドクラップのようなリズムと動きのある活動には興味津々に見ている生徒もあり、敷島中学校への感想にも反映していた。本校からは、総合的な学習の時間を使って『甲府支援学校のちょっといいところ紹介』として、感覚訓練室やスヌーズレンルームといった本校独自の特別教室での活動の様子や交流メッセージをビデオに収録して届けた。</p> <p>第2回目は、かねてからの目標であったGoogle Meetでのオンライン交流を実現することができた。初めての取り組みだったので、数回のリハーサルや会議コードについてなど入念な準備をし、当日はスムーズに交流会を実施することができた。フリートークのできる『質問コーナー』を設けたことで、生徒同士の質問や応答などのやりとりがしやすい状況を設定できた。その場で互いが声を掛け合い、生徒同士の生のやりとりを実践できたことは大変意義深かった。今年度中にオンライン交流の感想を交換し、まとめとする予定である。</p>		
課題点・次年度以降に向けて		
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響がなければ、来年度は直接会って交流する場を設けたい。1回目は直接、2回目はリモートでの交流を計画したい。 ・両校ともに行事の変更が多く交流日の移動を余儀なくされた。年度当初に確認した日程を再度確認し、時間帯や内容において効果的な交流になるように準備を整えたい。 ・生徒の映像の承認などをどのように扱うのかの認識が統一しておらず、自己紹介、感想文、感想ビデオなど相手校に渡す様々な資料の扱いに苦慮した。この2年間はコロナの影響でビデオに収録した媒体を貸し借りし合う間接交流となった。これまで直接交流では全く問題にならなかった個人情報の扱いについては、今後も校内で再確認し合う必要がある。 		

問い合わせ担当 (高橋 希)

学校名	山梨県立あけぼの支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 9回
	地域交流 : 0回
	居住地校交流 : 4回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流：オンライン交流をしよう（自立活動、道徳、特別活動）
実施した学部・学年	小学部1～6年生
<p><u>実践の様子</u></p> 	
<p><u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u></p> <p>甘利小学校5年生とZoomを使用した間接交流を行った。内容は、自己紹介とお互いへの質問、甘利小学校の児童が作成してくれたおもちゃの紹介である。今回使用したおもちゃは、事前に本校教員が甘利小学校に赴き行った福祉講話をもとに、甘利小学校の児童が自分達で考えて作成したものである。太鼓やマラカスなどの楽器、本校児童の好きなゲームのおもちゃやアクセサリなど、細部まで丁寧に作られていた。画面に交流相手の友だちの顔が見えると、どの児童もとても嬉しそうな表情で画面をよく見たり、話しをしたりしていた。昨年と同様の内容であったが、ブレイクアウトルームを活用したことで、交流時間を十分に確保することができた。</p> <p>本校児童からは、自己紹介、プレゼントを使っている様子、感謝の気持ちを伝えた。甘利小学校の児童からは、自己紹介、プレゼントの使い方、作成時の思いなどのメッセージがあった。本校児童は、友達の様子をよく見たり、声を聞いたりしていた。特に、甘利小学校の児童の手拍子に合わせて楽器と一緒に演奏する時には、お互いに笑顔いっぱい活動することができた。休み時間に友達のおもちゃと一緒に遊んでいる様子があった。</p> <p>甘利小学校の教員からは、「直接交流は出来なかったが、おもちゃを作成する際にあけぼのの友だちのことをよく考えることができた。」「実際に会いたい気持ちが強くなったという児童がたくさんいる。」という言葉を受けた。直接交流はできなかったが、お互いのことを思いやり、両校児童にとって充実した交流ができた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・通信環境を整備して、よりスムーズなビデオ通話ができるようにする。 ・直接交流ができるようになった際にも、事前学習などにオンライン交流を活用していきたい。 	

問い合わせ担当（ 佐々木 陽平 ）

学校名	わかば支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 12回
	地域交流 : 3回
	居住地校交流 : 14回 (2月1日時点)
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流 : オンライン交流 (生活単元学習)
実施した学部・学年	中学部2年
実践の様子	
	
児童・生徒の様子や実践の工夫点	
<p>感染症対策により今年度は、相手校とオンラインでの交流を2回行った。内容としては簡単な自己紹介や学習発表、ゲームを行った。1回目の学習発表では、本校は林間学校で披露したスタンツを各クラスで発表し、ダンスやシルエットクイズ、劇の発表をした。相手校からは生徒がダンスをみせてくれた。そのダイナミックな動きに画面にくぎ付けになっている生徒の様子が見られた。2回目は本校からは学習発表会で発表したダンス、マット運動、トンチャイムを披露し、相手校からは合唱発表会の様子を動画で見せていただいた。生徒たちが自分たちで考え工夫できるように、ゲームは生徒たちに何をしたいか投げかけ、生徒の意見の中から選択し、イントロクイズ、〇×ゲームを行い、大いに盛り上がった。質問タイムではリアルタイムにやりとりができ、質問に答えてもらってとてもうれしそうな生徒の様子が見られた。オンライン交流を通して、相手の顔を実際に見て、リアルタイムでやりとりができたことで、有意義な時間であったという感想が多かった。普段の学習の様子を見合うことで、お互いにどんな学習をしているのか、理解できたように思う。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>今年度のような交流の形も有意義だが、お互いの理解をより深めるために、実際に同じ場を共有した交流の重要性が、どの団体でも話題に挙がった。状況を見ながらその時にできる最大限の交流の方法をこれからも模索し、今までのつながりを絶やさないようにしていきたい。</p>	

問い合わせ担当 (横森 奈緒美)

学校名	わかば支援学校ふじかわ分校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 4 回
	地域交流 : 3 回
	居住地校交流 : 5 回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流：お店屋さんごっこ（あそびの指導）
実施した学部・学年	小学部全学年（1～5年生）
実践の様子	
	
児童・生徒の様子や実践の工夫点	
<p>鯉沢小学校5年生の児童と毎年2回の交流を行っていたが、1学期は間接交流として自己紹介カードとDVDの交換だけに終わった。2学期は相手校にての交流で、鯉沢小学校さんが是非来てくださいと言ってくださり、2年ぶりに直接交流を行うことができた。「お店屋さんごっこ」では、3つのお店を3グループで回った。鯉沢小学校の児童はグループ内で前半後半を分けて分校の児童につき、密にならないようにしたり、1回ごとに消毒をしてくれたりと感染症対策を徹底してくれた。優しく一人一人にやり方を教えてくれたり、次は〇〇に行くよと案内してくれたりし、分校の児童は大きな体育館での活動に終始笑顔で参加することができた。例年より時間を短くしての交流となったが、子どもたちの笑顔を見て、やはり直接交流ができて本当に良かったと両校で確認することができた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>交流の時間を短縮したため直接の自己紹介をなくしたが、やはり自己紹介があった方がお互いに交流する友だちがどういう人なのかがよく分かったのではないかと反省が出た。来年度は自己紹介も直接顔を見ながら行いたい。思いがけずに良かった点は、到着時間が少し早かったので自由に体育館を満喫できたことである。これまで初めての場所に慣れず隅で小さくしていた児童もこの時間をおして慣れることができ、交流する時間までにいつもの元気を取り戻すことができた。分校にはないステージに上がり踊り出す子もいて微笑ましい光景であった。来年度も早めに行かせていただき、自由時間を経てから交流にのぞみたい。</p>	

問い合わせ担当（ 中込 由紀 ）

学校名	山梨県立やまびこ支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 8回 (間接的も含めて)
	地域交流 : 4回 (間接も含めての全回数)
	居住地校交流 : 1回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流：みんなでポッチャをしよう！（体育）
実施した学部・学年	小学部2～6年、小学校3年生
<u>実践の様子</u>	
	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>新型コロナウイルス感染症予防の観点からオンラインで実施した。またお互いの生活年齢を考慮して、体験的な活動を伴う交流会を設定し、「ポッチャ」を実施した。的の中に入ったら得点になる、児童の実態に応じて雨樋を使うなどオリジナルのルールで、本校と相手校で縦割りのチームを作って行った。画面越しではあるが、友達のポッチャの投げ方を見て工夫したり、的に入った数をカメラにアピールしながら数えたり、同じチームの友達を応援したり、終わりの会では「もっと話がしたい。」「一緒に遊びたい。」などの感想がありお互いに有意義な時間となった。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>連携先が遠隔地であることが多いという地域の特性上、オンラインの活用は新たな可能性を模索するきっかけになった。また、人との関わりに不安や苦手意識をもつ生徒にとって、オンラインによる交流は、心のハードルを下げ参加を可能とし、さらに交流相手に話しかけたいといった意欲も生み出した。これらのことから、オンラインの交流と直接ふれあう交流のメリット、デメリットを整理し、参加する児童生徒の実態に合わせより良い形態を検討していく必要を感じた。今後は、交流及び共同学習の教育課程上の位置づけをより明確にし、全職員に周知して、個別の指導計画等に適切に学習を反映していくことが課題である。</p>	

問い合わせ担当（ 上武 愛 ）

学校名	山梨県立ふじざくら支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 6回
	地域交流 : 2回
	居住地校交流 : 8回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	絵本の読み聞かせを楽しもう (国語 自立活動)
実施した学部・学年	小学部
<u>実践の様子</u>	
    	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>富士吉田市立図書館おはなし会「このはなさくや」さんに来校していただき、小学部の地域交流を行った。小学部段階では、リモートによる画面越しのやりとりでは実感が伴わない児童が多いため、感染対策を行いながら直接交流を実施した。大型絵本の読み聞かせ、大画面に絵本を映しながらピアノに合わせた読み聞かせ、パネルシアター等、楽しい内容をたくさん用意していただき、児童は、臨場感を味わいながら物語に夢中になっていた。また、手遊びでは歌や言葉をよく聞いて、リズムに合わせて身体にタッチする活動を楽しんでいた。地域の方に本校の児童を知っていただく良い機会にもなった。</p>	
<u>課題点・次年度以降に向けて</u>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症対策として、小集団で活動すること、体育館等の広い場所でソーシャルディスタンスをとって活動すること、来校者に2週間前からの検温を実施していただくこと等、安全に配慮した形で、感染者数が落ち着いていた12月に実施することができた。しかし、感染状況の変化により、直接交流は実施が難しい場面も想定される。 ・ 作品交流や画面越しのやり取りでは、理解が難しい児童生徒にとってどのような交流活動がわかりやすいのか今後も模索が必要である。音楽（ピアノの読み聞かせ等）があると、リモートや画面越しでも相手を意識しやすくわかりやすいので取り入れていきたい。 	

問い合わせ担当 (川北 理恵)

学校名	かえで支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 15回
	地域交流 : 5回
	居住地校交流 : 1回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	生活単元学習
実施した学部・学年	小学部・4年
<u>実践の様子</u>	
  	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>感染症予防の観点から、ビデオ通話システムを用いて交流会を行った。事前に学校紹介のビデオを用意することで、支援学校で行われている授業の様子も相手校に伝えることができた。自分の好きな事、得意な事、図工の作品等を発表し、すぐに反応が返ってくることや、相手の表情が見てわかる点など、児童にとって交流しているという実感が持てる内容であった。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ通話システムは児童にとって分かりやすい点は良いが、通信環境によって途切れるなどのトラブルもあるため、臨機応変に対応する必要がある。 ・相手先にも通信に係わる環境や機器を扱う技術が必要となるので、事前の打ち合わせやリハーサル等を綿密に行うと良い。 ・相手先や交流の目的に応じて、間接交流とICT機器の活用などを適宜使用したい。 	

問い合わせ担当（麻川 貴子）

学校名	山梨県立高等支援学校 桃花台学園
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 3回
	地域交流 : 11回
	居住地校交流 : 0回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流（石和東小学校1年生）：サツマイモの定植（農業）
実施した学部・学年	高等部2、3年 農業生産コース
<u>実践の様子</u>	
	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>新型コロナウイルス感染防止対策のため、例年より交流する生徒を減らし、規模を縮小して行った。</p> <p>どのように教えれば1年生がわかりやすいかを考えて準備や練習をし、当日は話し方やわかり方を工夫して教え、畝立てから定植まで一緒に作業をした。1年生が自分たちの説明を一生懸命に聞く姿や、自分たちを頼りにする姿に直接触れることで、自己有用感を感じられた。また、工夫して準備をしたことで1年生が正しく理解して上手に定植ができたことで、充実感や達成感を感じることができた。</p> <p>苗植え後、手紙のやりとりを通して、収穫の報告を受けたり感謝の言葉をいただいたりした。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度実施できなかったため、農業生産コース3年生も初めての交流となり、考え方や準備の方法等、生徒が試行錯誤しながらおこなった。今後実施できない年度があったり、指導者が変わったりしても、同じ質の交流を続けていけるようにしていく。また、実施できないときは、ビデオ等を使って植栽方法を伝える等の交流を続けていく。 ・地域の小学校が、1年生、2年生、6年生と、1人の児童が3回の交流を積み重ねることができると、地域交流にもつながっていると思われる。桃花ダイスキマーケットのチラシ配付を小学校にも復活させ、地域交流の充実に向けて取り組んでいきたい。 	

問い合わせ担当（ 久保島真奈美 ）

学校名	山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園	
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流	0回
	地域交流	6回
	居住地校交流	0回
特徴的な実践例・工夫点		
授業名	特別活動	
実施した学部・学年	全学年	
実践の様子		
		
<p>小中学部合同で校舎玄関前の植え込みや児童相談所の植え込みの除草作業を行った。児童生徒が、植え込みの中から小さな雑草を見つけ丁寧に抜いたり、根の張った雑草を協力して抜く姿が見られた。終わりの会では、本校事務長にねぎらいの言葉をもらい、この活動が、地域に役立つ活動であることを確認することができた。作業中には、地域の方とあいさつを交わすことを、1つのねらいとしたが、その機会に恵まれず、残念であった。自分たちが生活している施設や学校を外から見たり、周辺地域を知ったりする機会となった。</p>		
課題点・次年度以降に向けて		
<p>本校は、施設入所及び通所する児童生徒が通学する支援学校である。そのため、児童生徒の実態や、個人情報について配慮が必要なことから直接的な交流場面を作りにくい状況がある。今年度も地域清掃を通して、地域を知ることや、地域の方々とあいさつ等でふれあう機会ができればと考えた。また、地域の郵便局に作品を展示することができ、本校のことを知ってもらう良い機会となった。今後も、直接交流は難しさが伴うことが考えられるため、地域清掃を継続的に実施し、ふれあいの機会をもったり、作品展示を行い、地域とのつながりをひろげたり、さらに地域交流の可能性を探っていくことが望ましいと思われる。</p>		

問い合わせ担当（遠藤 けさみ）

学校名	山梨大学教育学部附属特別支援学校	
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流	6回
	地域交流	1回
	居住地校交流	1回
特徴的な実践例・工夫点		
授業名	学校間交流：「少林寺拳法をやってみよう！」（保健体育）	
実施した学部・学年	中学部1～3年生	
実践の様子		
		
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園祭に際して交流校生徒会より応援動画が贈られ、当日の上映を通じて、コロナ禍においても可能な間接的な交流活動を行うことができた。11月には一旦感染状況が落ち着き、特別支援学級の生徒に来校していただき対面による交流を行ったり、保健体育の授業で一緒に少林寺拳法の実技練習を行ったりして、子ども同士の関わりをもつことができた。 ・学部全員の授業の前に、2学年の学級に入り少人数での自己紹介や学校紹介を行う中で、互いの緊張がほぐれて和やかな雰囲気を実技に臨むことができた。 ・初めての武道に戸惑う生徒もいたが、少林寺拳法特有の礼儀作法を習ったり、小グループに分かれて突きの練習をしたりすることができた。グループ内で「いいね」と言葉をかけ合ったり、自分から交流校の生徒に写真を撮ってもらう依頼をしたりする姿も見受けられた。 		
課題点・次年度以降に向けて		
<p>・今年度の学校間交流は、実施可能な交流校と連携し、コロナ禍においても可能な交流活動を計画して実施してきた。感染レベルに合わせた対応で、対面による交流を実施することができ、子ども同士の関わりをもつことができた。本年度は、1つの学部のみで交流活動が実現したが、今後可能な状況になれば他学部での交流も再開が望まれる。来年度の実施に向けて、本年度のように、状況に応じた交流及び共同学習を行うことができるように年度当初から準備を進めていくようにしたい。</p>		

問い合わせ担当（山主 ちよ）